



【発信日】 令和5年5月9日

【問い合わせ先】

大野市教育委員会事務局

生涯学習・文化財保護課 担当 佐々木、田中

電話 0779-65-5590 内線 75-204

### 金森長近公を紹介するパンフレットを配布しています

パネル展「ゆかりの地でたどる 金森長近公のあゆみ」（開催中）に関連し、パネルの内容をA4サイズに印刷して希望者に配布しています。

つきましては、市民をはじめ、多くの皆さんに手に取っていただきたく、周知をお願いします。

#### 記

- 1 配布場所 大野市歴史博物館（大野市天神町2-4）
- 2 配布時間 午前9時から午後4時まで（日曜・祝日は午後5時まで）
- 3 配布期間 3月18日（土曜日）から10月1日（日曜日）まで
- 4 内 容 別紙のとおり（大野市役所 市民ホールで展示しているパネルと同内容）
- 5 料 金 無料

6 その他

パネル展「ゆかりの地でたどる 金森長近公のあゆみ」は、織田信長の家臣として大野城を築城し、大野市街地の基盤となる大野城下町を整備した金森長近公の生涯を紹介することを目的に、3月18日（土曜日）から展示しています。

- ・期 間 3月18日（土曜日）から10月1日（日曜日）まで  
午前8時00分から午後9時30分まで
- ・場 所 大野市役所 市民ホール 特別ギャラリー
- ・パネル 18枚（誕生から死没まで）
- ・観覧料 無料

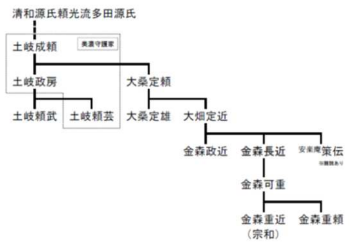
ゆかりの地である  
かなもりながらちこう  
**金森長近公のあゆみ**



金森長近公肖像画（金森在京家裏（越前大野城内表示））

生涯：大永4年（1524）  
死没：慶長13年8月12日（1608年9月20日）  
改名：可近（初名）→長近→素玄（法号）  
別名：五郎八（通称）

ち りやくけいず  
**略系図**




清和源氏頼光流多田源氏  
土岐成頼（奥州守護）  
土岐政房  
土岐頼武  
大森定頼  
大森定雄  
大森定近  
金森政近  
金森長近  
金森重頼（宗和）  
金森可重  
金森重近  
金森重精

名字について  
系図に「土岐」「大森」「大畑」「金森」と4つの名字が出てきますが、名字は「所領としていた土地（本貫地＝名）」を意味しています。つまり、「金森長近」は、「金森の地を所領している、または出身など所縁がある長近」という意味です。ちなみに、ここに登場する人たちの「氏」はすべて「源」です。

づ  
みのくにときぐんおほはたら  
**美濃国土岐郡大畑村  
（岐阜県多治見市）**


大永4年（1524）、長近公は、大畑定近の次男として、美濃国土岐郡大畑村で誕生しました。  
美濃国では、永正14年（1517）、美濃守護の土岐政房が嫡男・頼武を差し置いて次男・頼玄を推したことから家督争いが起こりました。この争いは美濃国内を分断させたばかりか、越前朝倉氏と近江浅井氏が各陣営を支援したことから、大きな混乱に発展しました。



く  
おのみくにやすぐんかねがもり  
**近江国野洲郡金森  
（滋賀県守山市）**

長近公は幼いころ、父・大畑定近が支持した土岐頼武が失脚したため、近江国野洲郡金森（以下、近江金森）へ移住したといわれています。  
近江金森は、東山道から琵琶湖の志那浦へ通じる志那街道（比叡山への輸送路）が通っていたことから、古くから宿駅として発展していました。また、領主・川那辺矩厚（道西）によって金森惣道場（金森御坊）を中心とした寺内町（計画都市）が整備されていました。  
計画都市と街道を組み合わせて経済を活性化させる方法は、長近公のまちづくりに大きな影響を与えたと考えられます。

り  
しないなしょう ほつてん おうみかねがもり  
**寺内町として発展した 近江金森**




おうみかねがもり おうみかねがもり  
**近江金森を横断する 志那街道**



の  
おりわじだいい  
**尾張時代**

天文10年（1541）、長近公は尾張国の織田信秀に仕官し、跡を継いだ信長にも仕えました。長近公は信長の親衛隊ともいえる「赤巾衣衆」に抜擢されています。それまでは可近と名乗っていましたが、数々の軍功により信長から「長」の字を使うことを許され、長近と名を変えました。



め  
えちぜんのおおのぐん  
**越前国大野郡  
（福井県大野市）**

天正3年（1575）8月、信長による越前一向一揆鎮圧の際、長近公は奥美濃から温見峠を越えて大野郡に入り、わずかな期間で平定しました。  
この功績として大野郡の3分の2を与えられた長近公は、龜山とその東麓に城郭を築き、さらに東に城下町を整備しました。



い  
えちぜんのおおのぐん  
**越前国大野郡  
（福井県大野市）**

長近公は城下町を「ヨコ町型」（街の区割りや主要街道、職人町といった町通りが、城郭に対して横向きに整備されている城下町）に整備しています。これは商工業の発展を促すもので、戦国時代としては、かなり先進的なまちづくりの取り組みです。



おのおのし とく  
**大野市の取り組み**

文化財の保存と活用について、「大野市文化財保存活用地域計画」（文化庁認定）では、「大野城の築城と城下町の形成、その後の発展」を大きな柱の一つとしています。  
これからも、越前大野城や城下町、関係する場所や歴史資料などを積極的に活用することで、「入づくり・まちづくり」を進めていきます。

おのおのし とく  
**大野市の歴史文化の特徴**（大野市文化財保存活用地域計画より）

人と地域がつなぐ「交流の文化」
1 原始・古代の人々の営み
2 町や村に暮らす人々の交流
3 華厳く「進取の気象」
戦時の城から豊平の大野へ「城・城下町の文化」
4 戦乱の時代と大野地域の城郭群
5 <b>大野城の築城と城下町の形成、その後の発展</b>
今も息づく「折りと祭り文化」
6 地域に息づく多様な信仰形態
7 受け継がれる芸能
自然と共に生きる「暮らし文化」
8 自然の恵みと暮らし
9 食の営み
大野に残る「太古の記憶」
10 在石・古物語る大野の歴史
11 山と盆地の豊かな自然環境

※実際には、各ページをA4サイズで印刷して配布しています。



のぶながしご ながちかこう  
**信長死後の長近公**

天正10年(1582)、本能寺の変によって命を落とした信長と金森長則(長近公の長男)の菩提を弔うため、京都の大徳寺に塔頭金龍院を建立しました。

信長の後継者争いは清洲会議を経て取らず、北の庄城(今の福井市)の柴田勝家と羽柴(のちの豊臣)秀吉の対立は賤ヶ岳の戦いへと発展しました。長近公は勝家側として参戦しましたが、戦況を判断して軍勢を退かせ、勝家の敗戦後に、秀吉に降伏しました。

賤ヶ岳の戦い

羽柴軍	柴田軍
羽柴秀吉	柴田勝家
丹羽長秀	織田信孝
織田信雄	前田利家
中川清秀	金森長近
戦力 5万-7万	戦力 3万

ひだくのにおおのぐんたかやま  
**飛騨国大野郡高山  
(岐阜県高山市)**

天正13年(1585)、秀吉の命を受けた長近公は飛騨国の姉小路氏を討ち取り、その戦功として飛騨一国を与えられ、飛騨国主として高山の鍋山城を拠点にしました。

天正18年(1590)に高山城の築城に着手し、慶長10年(1605)ごろに完成しました。天守は江戸時代に取り壊されましたが、建物が東山寺院群などに移築され、日本遺産「飛騨匠の技・こころ」の構成文化財になっています。

高山の城下町は武家地より町人地の方が広く、大野と同様、商工業を重視したことがわかります。面影を残すこの町並は、重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

たかやまじょうすいていふくけんす  
**高山城推定復元図**

飛騨高山まちの博物館提供

重要伝統的建造物群保存地区  
たかやましきんまきんでんとうてきけんぞうぶつごんぼんぞんちく  
**高山市三町伝統的建造物群保存地区**

飛騨高山まちの博物館提供

せきがはら たたか ながちかこう  
**関ヶ原の戦いと長近公**

豊臣秀吉の死後、徳川家康と旧豊臣家臣との間で関ヶ原の戦いが起きますと、長近公は徳川軍(東軍)として参加しました。長近公は当時76歳と高齢でしたが、美濃郡上八幡城攻め(八幡城の合戦)などで活躍しました。こうした戦功により、美濃国武儀郡(岐阜県美濃市、関市など)と河内国金田(堺市北区金岡町)が領地に追加されました。

結果、長近公は  
織田信長  
豊臣秀吉  
徳川家康  
の三英傑に比べました。

みののくにむぎぐんこうち  
**美濃国武儀郡上有知  
(岐阜県美濃市)**

慶長10年(1605)、80歳を越えた長近公は、飛騨一国と高山城を養子の可重に任せ、自身は上有知の鉦尾山城に入り、さらに小倉山城を築いて移りました。

長近公は上有知でも、領内の産業を活性化しました。紙・茶・雨傘・養蚕・生糸・織物などを奨励しましたが、特に製紙業に注目しました。紙専門の六斎市を開き、長良川沿いに川湊「上有知湊」を築いて流通・交通の要所としました。美濃和紙の集散地となった上有知は栄え、のちに城下町から和紙中心の商業町へと転換していきました。現在は、「うだつの上がる町並み」として重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

こうちみなとあさと た どうたい  
**上有知湊跡に建つ灯台**

大野市船ステーション  
中央に建つシンボルモニュメント「燈籠」は、上有知の川湊灯台をモデルにしています。

美濃市提供

重要伝統的建造物群保存地区  
**うだつの上がる町並み**

美濃市提供

ながちかこう し  
**長近公の死**

慶長13年(1608)8月12日、京都伏見で亡くなりました。享年85歳でした。

【菩提所】  
兼玄寺(岐阜県高山市)  
のち、大徳寺塔頭の金龍院(京都府京都市)に改葬。同院の鹿寺により大徳寺塔頭の龍源院(同所)に再び改葬。

龍玄寺(高山山)

ふしめじょうか かなもりやしき  
**伏見城下の金森屋敷**

推定地: 京都市伏見区 横山町金森出雲・御香宮門前町

推定地の敷地面積を大野市に当てはめると...

大野市 約1000坪  
大野市 約1000坪  
大野市 約1000坪  
大野市 約1000坪

【伏見横山御殿城之南説】 写: 明治14 国立国会図書館デジタルコレクション

ながちかこう あしあと  
**長近公の足跡**

死去 京都市  
幼年期 守山市  
仕官 名古屋市  
誕生 多治見市  
まちづくり 美濃市  
まちづくり 高山市  
まちづくり 大野市

Google

※実際には、各ページをA4サイズで印刷して配布しています。